

## 学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

## 1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制 普通科総合選択制
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	プロジェクターを活用したアクティブ・ラーニング型授業を継続的に実施できる教員の養成と増加 「学校教育自己診断」における生徒の授業に対する評価の向上 民間外部テストでの成績向上、進路未定者割合と退学者割合の前年度比減少
計画名	Cutting edge!TAISHO Project!! (プロジェクター活用の組織的アクティブ・ラーニング型授業で、変わる生徒、変わる学校、変わる大阪)

## 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	1 加速度的に変化する社会の中で対応できる「資質・能力」の育成 (1)次期学習指導要領改訂を踏まえ「育成すべき資質・能力」を伸張させるための授業改善に取り組む。 ア アクティブ・ラーニングの視点に立った深い学び・対話的な学び・主体的な学びを実現するための授業改善をすすめる。 イ 「アクティブ・ラーニング研究チーム」を中心に授業改革につながる研究・実践をすすめる、評価方法の研究も含め授業改革の進展を図る。
事業目標	①生徒の主体的学習時間を確保し、双方向の授業を実施・研究。プロジェクターを活用したアクティブ・ラーニング型授業を継続的かつ多様な教科で実施することで生徒の満足度を向上させる。そのために、教諭のプロジェクターの使用率を3年後に100%にする。 ②ベネッセコーポレーションの「基礎力診断テスト」を用いて、学力の定着度を分析し、指導・改善していく。 ③授業改革により、進路未定者や退学者の割合を減少させ、市民社会の一員としての自覚を持ち、意欲的に役割を果たそうとする姿勢を持った人材を輩出する。 ④上記、①～③を全校的、組織的に実施し、3年後にA L型授業の組織的実施におけるトップランナーとなる。
整備した 設備・物品(数量)	壁付け短焦点プロジェクター (20台)
取組みの 主担・実施者	取組みの主担：A L研究チーム 取組みの実施者：全教員
本年度の 取組内容	①A L研究チームの拡大。自主学習会（「サロンdeA L」）でのプロジェクター活用方法の研究、共有。 ②I C T機器活用講座実施（エブソンとの連携） ③産能大学小林昭文教授を招聘しアクティブ・ラーニング研修実施（7月） ④関西大学黒上晴夫教授によるA L型授業の研修とルブリック評価作成工房の実施、学校評議員としてのアドバイス（11月、2月、3月） ⑤6月、11月の公開授業週間でA L研究チームの教員によるA L型授業の公開、研究授業、研究協議。 ⑥パッケージ研修の実施（通年） ⑦「基礎力診断テスト」の実施、分析 ⑧取組み内容に関しての分析・改善点を検討（1～2月）
成果の検証方法 と評価指標	①A L研究チームメンバー20名以上。研究結果の分析、公表。 ②教員アンケートでのプロジェクターの使用率50%以上。 ③学校教育自己診断で授業の満足度の前年度比向上 「わかりやすい」75%→80%、「工夫している」76%→80%、「考え、発表する」74%→76%。 ④「基礎力診断テスト」での成績向上者（Cゾーン以上の生徒数）の前年度比10%増加。 ⑤進路未定者15%以下、退学者20名以下。
自己評価	※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×） ①A L研究チームメンバー22名。（○） 研究結果を教務研究会やカリキュラム・マネジメントリーダー研修、他校の研修会など、各所で発表。他府県からの視察依頼も多数あり。（◎） ②教員アンケートでのプロジェクターの使用率65%。使用者の内、38.5%は毎時間使用、96%が効果を実感。（◎） ③学校教育自己診断で授業の満足度は微減している。（△） 「わかりやすい」77%→74.9%（-2.1%）…生徒のニーズを的確に捉えられていなかったためと考えられる。 「工夫している」75%→73.3%（-1.7%）…教員はほぼ100%が工夫しているが、それが生徒に伝わっていない。 「考え、発表する」74%→69.5%（-4.5）…1年生では多くの授業で実施されている。 ④「基礎力診断テスト」での成績向上者（Cゾーン以上の生徒数）15%→14%（△） 基礎力の定着にはつながっていないため、生徒の興味・関心を引き出すだけでなく、どのように学力をつけるのかを研究しなければならない。 ⑤進路未定者19.3%→15.3%（△） 退学者36名→24名（3年2名、2年6名、1年16名）（△）
次年度に向けて	①A L研究チームの充実 ・メンバーの人数を増やすことだけでなく、活動の内容を深めていく。そのために、授業における共通の目標をより具体的に設定し、生徒の授業満足度につながるような実践を研究していく。 ・A L研究チームメンバーが、授業内で「主体的・対話的・深い学び」を実践することにより、生徒が主体的に学習意欲を向上させ、主体的に進路を選択できるように促し、「基礎力診断テスト」の成績向上、進路未定者や退学者の減少を図る。 ・積極的に校外に情報を発信することで、他校や外部との連携を深め、より多角的に授業改善に取り組んでいく。 ②プロジェクターの使用率向上 プロジェクターの使用に関して、アンケートで62%が教員用タブレットの整備を求めている。Wi-Fi環境の整備とともに情報機器を整備し、プロジェクターの使用環境を整える。また、「サロンdeA L」の中で、校内・校外での実践例を学び、本校での活用をより拡大、深化させていく。